

夏休みとはいえ、先生方には、出張や研修、部活動等充実した日々をお過ごしのことと思います。体調管理には、十分お気を付けください。

調査問題の共有

さて、4月21日実施の全国学力・学習状況調査の調査問題は、校内全ての先生方が共有されていますでしょうか。

なぜ、担当の学年や教科の先生方だけでなく、全ての先生方で共有する必要があるのですか。

という質問を受けることがあります。その理由を、小学校国語の調査問題を例に考えてみましょう。

解説資料に示された内容

下の問題は、国語A（主として「知識」に関する問題）の8番です。この問題を解くためにはどのような力が必要なのでしょう。

調査後示された解説資料では、学習指導要領第3・4学年の言語事項「文及び文章の構成」、「指示語や接続語」に関する内容であることが示されています。確かに③の文が、「ので」という接続語によって、二つの内容をつないでいることを読み取ることで、正答を導き出すことができます。

国語A 8の問題

<p>※解答は、解答用紙に書きましょう。</p> <p>（正答） そうにしていて</p> <p>ぼくは、これま</p>	<p>だから、</p> <p>①放送委員会の役員を決める話し合いをした。②ぼくは、委員長を任されることになった。③新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。</p>	<p>【文章の一部】</p> <p>8 六年生の高島さんは、五年生のときから入っている放送委員会のことを文章に書きました。読み直した後、③の文について、「だから」を使って二つの文に分けて書き直すことにしました。「だから」を使って二つの文に分けたときの前の文の終わりの七文字と後の文の始めの七文字を書きましょう。</p>
---	---	---

3・4年生以外の内容は関係ないの？

では、この書き換え問題は、3・4年生の内容をしっかりと押さえておけば、それだけで解答できるのでしょうか。

ここで、是非行いたいのが、解答状況の分析です。4月の調査後、各学校において課題改善の取組を進めるために、解答の状況を把握されていることと思います。その中で、誤答に注目してみてください。

- ・「前の文の終わりの七文字と後の文の始めの七文字」の意味がとらえられていない。
- ・後の文の始めの七文字「ぼくは、これま」の中にある読点を記載していない。
- ・後の文の主語「ぼくは」を省略して記載している。

このような誤答はなかったでしょうか。これらは、低学年でも指導する「言語に関する事項」とも関係しています。

【学習指導要領低学年の内容より】

- ・句読点の打ち方や、かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。
- ・文の中における主語と述語との関係に注意すること。

全教員による系統性のある取組の推進

6年生での調査が、全ての学年での指導に関係していることがお分かりいただけたでしょうか。こうしたことから、担当の学年や教科の先生方だけでなく、全ての先生方で調査問題を共有し、授業改善に生かすとともに、学校全体として系統性を意識した指導を行うことが大切なのではないでしょうか。

【小学校国語科の授業で大切にしたいこと】

県内の先生方が、子どもたちの興味関心をしっかりと引き出し、子どもたちが意欲的に取り組む単元を設定しようと努力されていることは、学校訪問等の授業からもよく分かります。その際、気を付けていただきたいことは、学習指導要領に示された内容の中で、どの指導事項を身に付けさせるのかということを確認して構成することです。

授業後、子どもたちは学習に意欲的に取り組んだけれども、学習したことが次の単元に生きて働かないなど感じられたことはありませんか。

平成21年2月に御協力いただいた5年生対象の小学校第2回確認問題の国語では、

「犬は、においをかぐ能力がすぐれています。だから、けいさつ犬は、においで犯人を追いかけてくれます。」という二つの文を「ので」を使い、一つの文に書き換える問題

を出題しました。学校の平均正答率はすでにお届けしております。この平均正答率とこの度の全国学力・学習状況調査の国語A⁸の平均正答率とを比べてみると、一側面ではあっても、知識を場面に応じて使いこなせるかどうかは分かるのではないのでしょうか。

国語科の授業においては、学習指導要領に示された内容を確認し授業を構成する、「じっくり読む」「短時間で読み取る」等のバランスをとる、課題意識を明確にし根拠をもとに話し合いを行うことなどを、大切にしていかなければならないと思っています。